

特定非営利活動法人
気象キャスターネットワーク

活動報告書

2018年



2019年 2月 16日

学校出前授業

気象や環境、防災などに関する様々なテーマの出前授業を全国各地の小学校、中学校、幼稚園などで実施しています。ワークショップや天気の実験、クイズなどを織り交ぜ、楽しみながら学べる授業です。

2018年は、企業様、団体様のご協力をいただきながら、小学校、中学校、幼稚園で一年間に合わせて183回の出前授業を行いました。

活動名	2018年実施数	実施地域
地球温暖化防止コミュニケーターによる 小学校・中学校環境出前授業 (環境省 委託)	128回 (2018年度132回)	全国各地
「なるほど！お天気実験教室 ～フロンを知って 地球を守ろう～」 (ダイキン工業株式会社 協賛)	20回 (2018年度18回)	東京・神奈川 大阪・三重
地球温暖化防止コミュニケーターによる 中学校環境出前授業 (足立区 委託)	7回 (2018年度7回)	東京都足立区
台東区学びのキャンパスプランニング (台東区 委託)	9回 (2018年度7回)	東京都台東区
自主事業による出前授業(減災プロジェクト)	19回 (2018年度20回)	全国各地
合計	183回 (2018年度184回)	

■2018年出前授業実施実績 183回

地球温暖化防止コミュニケーターによる 小学校環境出前授業

気候変動に関する政府間パネル「IPCC」の内容を一般の国民に伝えていく「地球温暖化防止コミュニケーター事業」。2013年度から始まった事業も全国各地に広がりつつあります。その中で気象キャスターネットワークでは気象の専門性を活かしながら、多くの気象キャスター・気象予報士が地球温暖化防止コミュニケーターとして活動をしています。



今年も昨年に引き続き、小中学校の出前授業を実施しました。小学校では45分間の授業で、地球温暖化の原因、影響、対策について座学や実験を通して伝えています。



冒頭の「2100年未来の天気予報」は、講師の本格的な天気予報とインパクトのある数字に、子供たちが「わあ！日本中が暑い！」「大きな台風」など驚きの声をあげているのを毎回耳にします。サイコロ型のボックスを使って、私たちの

生活の中で「どこでエネルギーを使っているのか」を考える時間では、子供たちの豊かな発想・視点から、予想外のさまざまな意見が出て、講師が驚かされることも多くあります。

2018年は全国の小学校で120回を超える授業を実施しました。今年初めて授業を実施する地域や学校もあり、全国のたくさんの小学生に地球温暖化について知ってもらえる喜びとともに、その重要性も感じています。



地球温暖化防止コミュニケーターによる 中学校環境出前授業

中学校でも、地球温暖化防止コミュニケーターによる環境出前授業を実施しています。全国で年間10回、足立区主催で2校と実施数は多くありませんが、授業の内容はボリュームたっぷり。前半後半それぞれ50分の授業もあっという間に過ぎていきます。

前半は座学と実験。内容は小学校の授業と大きくは変わりませんが、

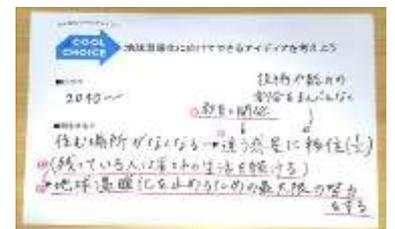


海面上昇実験とCO2吸収実験があります。



後半はアクティブラーニングです。前半の授業を振り返りながら、『未来年表(予測されている未来の出来事)』に自分の年齢を記入。未来の社会で生きる自分をイメージします。2100年に現在の中学1年生は95歳なんですね。

次に「アイデアプレゼンシート」の作成。地球温暖化に向けて自分たちができるアイデアを考えるグループワークです。自分たちが生きる未来の地球はネガティブな事柄が目立ちますが、未来には技術の進歩というポジティブな予想もあります。



未来に向けて「100パーセントできない」というアイデアはありません。「でてるアイデアに、絶対できないはなし」これがルール」と伝えると、次々に思いもよらないアイデア、発明、政策が飛び出します。最後にアイデアプレゼンシートの発表や共有があります。

「IPCC」の内容を伝えるだけでなく、そこからさらに考えてもらう授業です。中学生たちが考える未来は非常にポジティブでした。

「なるほど！お天気・環境実験教室

～フロンを知って 地球を守ろう！～(ダイキン工業株式会社 協賛)

「なるほど！お天気・環境実験教室 ～フロンを知って 地球を守ろう！～(ダイキン工業株式会社協賛)は、フロンの利便性と地球温暖化への影響をお伝えし、各家庭でフロンとの向き合い方を考えるきっかけづくりを目的にしています。今年度で8年目を迎え、累計参加生徒数は1万人を超えることができました。

1時間目は「天気と環境」がテーマで、実験を交えて雲や雨の仕組み、世界の水不足問題についてお話ししました。



どの学級でも天気や節水に関する意識が高く、実験や話し合いに積極的に参加する生徒もたくさんいました。



2時間目は、「フロン」に関して、エアコンの中の役割や地球温暖化との関係をお話ししました。エアコンを解体したり、学校のエアコンに封入されているフロンの量を調べるなどして身近であることを実感してもらいました。フロンの温室効果が二酸化炭素の800～2000倍であることを伝えると、「僕が大きくなったらもっと影響の小さいフ

ロンを作るよ！」と頼もしい生徒もいました。



また11月28日に参議院議員会館で開催された『COP24カウントダウンセミナー』にて、フロンの環境教育の実施事例として、当プログラムを紹介することができました。多くの方にこの活動を知っていただくことで、今後もさらに多くの子どもや家庭でフロンや環境について考えるきっかけづくりができれば幸いです。

自主事業による出前授業 (減災プロジェクト)

これまでの講師の経験を生かし、授業内容、実施する学校、学校調整など、全て講師にお任せし授業を行う「自主出前授業」を今年も実施しました。

今年は保育園・小・中・高校、公開講座など計19回、母校やお子さんのいる学校での授業など、普段の出前授業ではなかなか行くことのない学校でも授業を実施することができました。

気象キャスターネットワークで実施している地球温暖化・防災の内容だけでなく、気象予報士の仕事について話をしたり、それぞれの講師オリジナルの授業を各学校で実施できたと思います。

実施した講師の感想を紹介します。

■大雨や台風などの異常気象、避難情報、警報などについて伝えました。実験として雲作りペットボトルで雲を作り、2人の生徒さんに体験してもらいました。とても興味を持ってくれて、災害についての意識も高まったようです。ぜひ来年も授業をしてほしいと校長先生に言ってもらえました。防災を小学校で伝えることは、大切に、学校からの需要も高いと思いました。今後とも続けていきたいと思いました。

■5年生120名を2クラスに分割して実施。1人で授業を進めたが、担当の先生方の

ご協力もありスムーズに進行できたと思います。

ちょうど天気や台風の学習をしている時期であったため、天気予報や防災への取り組みなど意識を高く持って臨んでいるように感じました。実験の機会やワークショップなどで多くの児童たちとふれあうことができました。



台東区 学びのキャンパスプランニング

台東区教育委員会が主催する「台東区学びのキャンパスプランニング」を通じて、台東区内の保育園(4園)・小学校4校)・中学校(1校)で、気象・環境・防災の授業、キャリア教育を行いました。

保育園では、身近な天気のことや熱中症、気象災害について、防災キャラクターの「サイぼうくん・サイぼうちゃん」と「博士」と一緒にクイズや紙芝居、歌を交え、体を動かしながら遊んで学べる授業を行いました。今年は2名がサイぼうちゃんとしてデビューしました。

保育園での授業は元気いっぱいの園児に博士やサイぼうちゃんが押され気味になることがしばしばありますが、その元氣

のよさと、素直な反応にいつも楽しく授業を行っています。楽しみながら、気象のことや防災のことを知ってくれたら嬉しいです。

小学校では「空の教室」「自然エネルギーの教室」「暑すぎる東京のふしぎ発見」の3テーマの中から1つ選んでいただき、授業を行いました。簡単な実験や観測も取り入れ、より具体的、実践的に学べる授業を実施しました。

中学校は、『夢を語る授業「みんなにお天気を伝えたい』』と題して、キャリア教育の授業を行いました。どうして気象キャスターになったのか、仕事のやりがいなどを中学2年生にお話ししました。講演を

聞いて、気象予報士や気象キャスターの仕事に興味を持ってくれたらと思います。

今後も事務所の所在地である台東区とともに地域に根差した活動も広げていきたいと思っています。



イベントの開催

2018年も全国各地で子ども向けの天気や環境、防災に関するイベントを実施しました。イベントでは、テレビやラジオの気象キャスターが実験やゲーム、クイズを取り入れながら、ステージを盛り上げます。雲や雨、竜巻など天気の実験のほか、気象キャスター体験など、子ども達が実際に体験して楽しめるしかけもたくさんあります。また、東日本大震災以降継続している被災地ボランティアイベントは宮城県東松島市で実施しました。気象キャスターネットワークでは、今後も被災地でのボランティア活動を続けていきたいと思ひます。

2018年 イベント 実施例
地球温暖化防止コミュニケーターによる親子向けイベント（東京、大阪、山形）
被災地支援イベント「WCN気象キャスター・気象予報士と一緒にまなぼう！お天気ぼうさい教室」（宮城県東松島市）
ダイキンショールーム「お天気・環境実験教室」（東京、大阪）
国土交通省「お天気キャスターと楽しく学ぼう！わくわくお天気教室」（徳島県吉野川市、新潟県魚沼市）
水資源機構 水の週間イベント 親子で学ぶ防災教室 自然災害から身を守ろう（東京）
品川区環境情報活動センター 子ども環境学習講座
国土交通省関東地方整備局「気象キャスターと学ぶ防災教室」

■2018年イベント実施実績 36回

6月23日 兵庫県明石市 自主イベント「お天気教室」

皆さん、こんにちは、関西の理事、蓬萊大介です。6月23日(土)自主イベントを蓬萊の地元明石市にご協力いただき、関西で初めて開催しました。参加できる会員を募り、内容や割り振りを自分たちで考えてイベントを作りました。会場、宣伝は主催である明石市側にすべてして頂きました。募集は予定90名の所に250名以上の応募があり、明石市が抽選しました。

イベントは大盛況のうちに終わり、来客者も明石市も非常に喜んでいただきました。「明石焼き」「名産とうもろこし」を明石市からプレゼントして頂き打ち上げをしました。

他のキャスターからも、お天気の紙芝居で参加者の興味がより深くなった、手を挙げてこたえてもらったり体を動かすことで、より深く知ってもらえたことなどが意図が出ました。



今後も全員がWIN-WINになるような地域自主イベントを開催したいと思っております。関西会員の誰かから発案があれば積極的にイベントができればと考えています。

9月1日宮城県東松島市 「WCN気象キャスター・気象予報士と一緒にまなぼう！お天気ぼうさい教室」

日本大震災から7年半。今回のWCN被災地イベントは9月1日防災の日、宮城県東松島市野蒜(のびる)の防災学習施設KIBOTCHA(キボッチャ)で開催しました。



子どもたちが遊びながら、災害から身を守ることに学ぶKIBOTCHA防災ワークショップの一環として行った「WCN気象キャスター・気象予報士と一緒にまなぼう！お天気ぼうさい教室」。実験やクイズのほか、ドラえもんや南極に行った空の探検家・武田康男先生の映像コーナーもあり、見て、聞いて、南極

の氷をさわると五感で楽しむ内容でした。



みんなの笑顔が印象的でした。

また、後半の視察では語り部の話を聞きながら旧野蒜駅まで歩き、被災地の今を感じるひとときとなりました。「被災地の今」を見て感じたことをこれからどう伝えていくのか…。ひとりひとりの宿題でもあり、それが未来への虹の架け

橋になるのかもしれませんが。

イベントにお越しいただいたみなさん、そして、会場・キボッチャのスタッフのみなさん、全面的にバックアップしていただいた貴凛庁のみなさん、本当にありがとうございました。(正会員 鈴木智恵さん)



8月16日(東京)、8月26日(大阪)、10月28日(山形)

環境省 presents

「気象キャスターと一緒に考えよう 親子で学ぶ地球温暖化」

2018年は環境省の親子向けイベントを東京・大阪・山形の3か所で開催しました。それぞれの地域で活躍している気象キャスター・気象予報士が一堂に集まり、イベントを盛り上げ、各会場ともに多くの親子でにぎわいました。

東京国際フォーラムでは昨年に続き2度目の開催でした。2018年に更新された最高気温や、甚大な被害をもたらした平成30年西日本豪雨など、この夏の事象について数多く扱いました。また、大きな風船を膨らませ、排出している二酸化炭素の量を実感してもらい、会場の親子に実際に触ってもらいました。たくさんの風船が天井まで飛び跳ね大いに盛り上がりました。最後に、これから自分が取り組むことを書いて大きなツリーのボードに貼り付けました。



大阪市立科学館でのイベントでは他会場にはない名物コーナー…科学館の江越学芸員による実験もありました。地球温暖化の原因とされる「二酸化炭素」について、実験を通して分かりやすく説明していただきました。実験の成功を皆ではらはらドキドキしながら見守り…見事大成功に終わりました！



山形ビッグウイングで行われたイベントでは、東北の気象キャスターが一堂に会し、初めてオープンスペースにてイベントを行いました。東北で初めての開催、また事前登録ではなかったため、人数が集まるか心配でしたが、実際に始まるとほぼ満席で、イベントの終わりころには立ち見も出るほ

どの大盛況でした！東北キャスターのそれぞれの県での地球温暖化の影響も話してもらったので、より身近に感じられたと思います。



地球温暖化問題は待たなしの先送りできない問題です。気象キャスターネットワークでは、今後も、地球温暖化防止コミュニケーションャーとして、そして地球温暖化をはじめとした環境問題のメッセンジャーとして、様々な知識普及活動を行っていきたく思います。



八王子市

地球温暖化防止啓発イベント

12月9日に、地球温暖化防止月間に合わせ八王子市のオリンパスホールで行われた、地球温暖化防止啓発イベントに八王子市からの依頼を受け「環境教室」を行いました。

今回のイベントでは天達さんをメインに地球温暖化の原因・影響・対策について話が進められていきました。気象キャスターネットワークとして、これまで環境教室は全国各地で行ってきましたが、今回はとにかく会場が広く、参加人数も1,000人を超えるという大規模なイベントとなりました。普段行っている実験も大きな会場ではインパクトがないのではないか、そもそも見えないのではないか…など、さまざまなことを想定しながら、内容を決めていきました。



ペットボトルで雲をつくる実験では、大学生のボランティアの皆さんにもご協力いただき、会場通路を利用して、皆さんに見てもらえるような工夫をしました。いつもボックスを使っている「生活の中でのエネルギー」を考えるワークでは、ボックスではなく、学校生活、家の中など、生活のある場面が描かれたカード配布し、その場面について、どんなエネルギーが使われているのか、書いて発表してもらいました。「5個は書いてね～」と問いかけをしましたが、いくつ書けたか聞いてみると「10個～」とたくさん見つけて書いてくれるお子さんもいました。

今回のイベントで一番盛り上がったのは、風船を使って二酸化炭素の量を体感してもらおうコーナーです。4人家族では、1日で風船何個分の二酸化炭素を排出しているのかクイズを出し、正解の個数を実際に会場に出して、その量を体感してもらいました。風船をポンポンと弾き、会場に舞う風船の景色は2階から見ても、ステージから見ても圧巻でした。

ただ伝えるだけでなく、参加者が実際に手を動かし、体を動かし、考えてもらうことで、地球温暖化について1つでも多くのことを覚えていただける、そんなイベントとなっていれば嬉しく思います。



講座・研修会・見学会

気象キャスターネットワークでは、会員の方が気象・防災・環境に関する最新の情報・知識を学ぶことができる講座・研修会・見学会を実施しています。今年は平成29年7月九州北部豪雨や波浪と高潮についての講座を実施しました。また、地方ごとに独自に勉強会や見学会も実施しています。雪を学ぶツアーや観測船の見学会など、実際に体験する機会も多く実施しました。

4月21～22日
雪の大谷で雪を学ぶツアー

4月21日(土)と22日(日)の二日間、富山県の立山で、雪を学ぶツアーが開催されました。雪…と言っても季節は春。この時期にたくさんの雪と触れ合えるのは、多くの観光客で賑わう、立山黒部アルペンルート・雪の大谷です！まず、1日目は、アルペンルートの富山の玄関口立山駅のすぐ側にある富山県立山カルデラ砂防博物館で、立山の成り立ちや雪が多く降る地形について学びました。



教えてくださったのは、立山カルデラ砂防博物館の学芸課長で、日本で初めて、現存する氷河を発見した飯田肇先生。飯田先生は、立山地域の積雪、氷河、雪崩、気象を継続して調査していらっしゃいます。そして、いよいよ2日目は、立山黒部アルペンルート、雪の大谷へ！実は、私は富山が故郷で、現在の仕事の舞台でもあるので雪の大谷へは、ここ数年は毎年訪れています。毎年行っても、全く飽きることはありません。今年の雪の壁の高さは…17メートル！例年並みです。今年、北陸地方は大雪に見舞われました。JPCZ(日本海寒帯気団収束帯)がっかり、日本海で発達した雪雲が流れ込む、いわゆる里雪型の雪で大雪になったため、実は、山はほぼ平年並み。平野と山の雪の

降りかたは違うということも実感しました。この日も、飯田先生にレクチャーを受けながら雪の大谷を散策しました。

あつという間の2日間。気象キャスターネットワークの皆さんと共に、飯田先生にレクチャーを受けながら歩くと、新たな発見と学びの多い立山での研修となりました。(正会員 木地智美さん)

5月12日
気象キャスター座談会

5月12日(土)に気象キャスターの河波貴大さん、檜山靖洋さん、竹下愛実さんをお招きして、気象キャスター座談会を開催しました。進行役は理事長の藤森涼子がつとめました。

河波キャスターからは局入りから本番までの様子を写真付きでお話いただきました。竹下キャスターからは表示画面や構成についてのノウハウ、こだわりなどをお話いただきました。檜山キャスターからは伝え方について意識していること、想いなどをお話いただきました。

参加者からの質問コーナーでは、「衣装

は自前ですか？」「全国放送とローカル放送の違いは？」「キャスターに必要な技術とは？」など業務に関することから「終業後は何をしていますか？」「インターネットで自身のエゴサーチはしますか？」などプライベートなことまで、非常に幅広く鋭い質問・想定外の質問もたくさんありました！

今回は学生さんだけでなく社会人のかたもたくさん参加いただきました。

終了後も残って個別で質問する参加者もたくさんいらっしゃいました。

現役気象キャスターと志望者との距離

がぐっと縮まりとても有意義な会となれたと思います！

7月9日
海洋気象観測船「啓風丸」見学会

7月9日(月)に気象庁の海洋気象観測船「啓風丸」を見学させていただきました。この日、観測のための出港日となっており、出港準備の慌ただしいなかでも、大変丁寧に親切にご説明いただきました。

まず操縦室にて操船設備、屋上では設気象観測機器について説明していただきました。観測室では、実際に観測・分析業務を行っている職員の方から、観測につ

いてや、どのようなシフトになっているのかなど、船内生活についてもお聞きしました。聞いたことはある機器を実際に見ることができ、参加された会員の皆さんからは、歓声があがっていました。見学後は皆で啓風丸の出港を見送りました。

気象庁では今回見学させていただいた「啓風丸」の他に「凌風丸」を所有し、地球温暖化の予測精度向上につながる二酸化

化炭素の監視等、様々な観測を行っています。



7月21日

関東地方整備局 ハツ場ダム見学会(群馬)

7月21日(土)ハツ場ダム見学会が行われました。軽井沢駅に集合し、「なるほどやんば資料館」でダム概要を勉強後、まずは右岸のハツ場ダム工事現場視察。昼食に名物「ダムカレー」を道の駅でとってから、午後は左岸の工事現場へ。普段は入れないダムのすぐそばで見学。実際の場所に立つと、そのスケールや現場の高さに圧倒されます。

参加した会員の報告です。

工事現場では、気象情報が大変重要です。ワイヤーを使って重機やセメント入りの大きな容器を吊りあげて運ぶため、風の強さを常に監視。風速10メートルで中

止になるそうです。また、コンクリート部分の工事では雨が大敵。作業を中止にするロスや雨に濡れた部分がだめになってしまいうロスもあります。工事関係者は実況と予想をにらめっこしながらの作業。気象会社の予測部門の仕事が、このようにシビアに影響する現場を知ることができたことも貴重な体験でした。

(正会員 伊藤みゆきさん)



6月16日

北海道開発局 勉強会

2016年8月30日から31日にかけて北海道に接近した台風10号により、記録的な大雨となった所がありました。今回、大きな被害のあった場所の5箇所を視察しました。当時は、日高町の中心部にも川の氾濫で一部危険な状況だったそうです。北海道開発局も台風10号は事前から警戒をしていて、パトロールを強化し、早めに通行止めの判断をしたとおっしゃっていました。現場を見ることによって、防災の時に、天気予報で何を伝えるのかを、改めて考えさせられました。

(正会員 吉井庸二さん)

講演・セミナーなど

官公庁や自治体、企業、団体からの依頼をいただき、一般市民や企業社員向けなどの講演やセミナーを全国各地で実施しました。気象キャスターや気象予報士が、気象災害から身を守るための様々な気象情報の活用方法や、天気予報の見方など最新の映像や事例を交え、わかりやすくお話ししています。



気象健康セミナー(大塚製薬株式会社協賛)

2018年 講演・セミナーなど 実施例

気象健康セミナー (大塚製薬株式会社協賛、2018年14回実施)

お天気キャスターと学ぼう マイ・タイムライン(2018年3回実施)

環境省 地球温暖化防止コミュニケーター 養成セミナー(2018年17回実施)

気象キャスターから見た地球温暖化

気象キャスターと学ぶ防災教室&施設見学

水災害からいのちを守るために

異常気象と地球温暖化

天気の達人から見た、異常気象と気象災害への備え

目からウロコの天気予報(知っているようで知らない天気予報の中身)

2018年の熱中症対策

気象・環境などに関する原稿執筆、インタビュー

■2018年講演など実施実績 177回

4月～11月 大塚製薬株式会社協賛「気象健康セミナー」

大塚製薬株式会社と協働の健康気象セミナーを、4月から7月にかけては主に熱中症対策について、北は福島県いわき市から西は大分市まで全国13か所で実施しました。11月には乾燥対策をテーマとしたセミナーを神奈川県平塚市で実施しました。

また、2018年に引き続き、「動画で紹介気象キャスターと学ぼう!熱中症」のホームページを開設し、全国では建築や工場等の安全管理担当者向けに、宮崎県では教育関係者向けに、動画配信による情報提供を行いました。



7月31日、8月28日 気象キャスターと学ぶ防災教室&施設見学

国土交通省関東地方整備局の主催で、主に教育関係者を対象とした防災教室を、治水施設見学会と兼ねて実施しました。

7月31日には埼玉県春日部市の首都圏外郭放水路で井田寛子さんが、8月28日には埼玉県秩父市の荒川上流ダム群

(浦山ダム、二瀬ダム、滝沢ダム)で國本未華さんが講師を担当し、『子どもたちが水災害から守るために何を伝えるべきか?』というタイトルで、学校カリキュラムで水防災教育を実施する際に役立つ内容を講演しました。



気象・生活情報の提供

気象キャスターネットワークでは、熱中症情報や乾燥情報など生活に役立つ情報を発信しています。

熱中症予防情報(大塚製薬株式会社協働)では、暑さ指数(WBGT)を使い、気温だけでなく湿度などを加味した熱中症の危険度を予測しています。スマートフォン向けページではGPS機能で現在の暑さ指数を手軽に表示できる形となっています。

生活乾燥情報(大塚製薬株式会社協働)では、暖房した室内の乾燥度合が分かる室内乾燥指数(IDI)を予測しています。

春には独自の「さくら開花予想」を発表しています。また会員の皆様にお役立ていただける気象情報閲覧ページも開設しています。

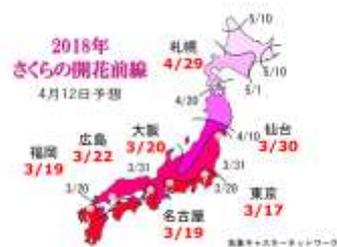
2018年は、タブレットを使った子ども向け防災教材「サイぼうくんのお天気ぼうさい探検隊」を子どもゆめ基金助成事業として公開しています。



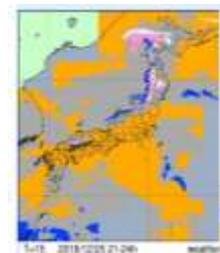
熱中症予防情報(大塚製薬株式会社協働)



生活乾燥情報(大塚製薬株式会社協働)



さくら開花予想



会員専用ページ MSMガイダンス



タブレット端末を使った子ども向け防災教材



会員数

この1年の間にも多くの方に新規に会員になっていただき、2018年12月末で会員数は計256人となりました。全国の多くの会員の皆様にご参加いただいているパワーとネットワークを生かせるように、2019年も一層活動の幅を広げていきたいと考えております。

正会員	149名
一般会員	99名
学生会員	8名
賛助会員	3社
計	256名・3社

2018年12月末現在

2018年新任理事よりひとこと



さくらざわ しんじ
桜沢信司さん

2019年は「気象キャスターがこんなことを?!」と思うような、これまで行ったことがないイベントを企画・制作を目標に頑張ります!



いわなが さとる
岩永 哲さん

気象キャスターの最大の仕事は臨機応変な災害対応だと思っています。

ただその土地を知らないキャスターが大雨などの注意喚起したところで薄っぺらいものにしかなりません。WCNの理事として、それぞれの土地における災害の本質をもっと理解するのに役立つような取り組みを色々企画できればと考えています。

NPO法人 気象キャスターネットワーク

〒110-0002

東京都台東区上野桜木1-14-21
高遠レジデンス上野桜木202号

TEL 03-5832-9401

FAX 03-5832-9402

MAIL info@weathercaster.jp

ホームページもご覧ください

<http://www.weathercaster.jp/>

気象キャスター

検索

